

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 305

所管部局	福祉部	所管課	健康課	担当者名	疋田 ミツル
事業名	母子保健事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	母子保健事業			政策体系	141
会計	一般会計	科目	4. 衛生 - 1. 保健 - 1. 保健		

1. 事業の概要

妊娠時に、母親教室を開催。出生後はこんにちは赤ちゃん訪問を全出生児を対象に行い、必要に応じて保健師・栄養士が経過訪問を実施した。乳幼児健診では乳幼児の心身の状態を観察するとともに、小児科医・歯科医により診察、臨床心理士等による発達確認、保健師・栄養士・歯科衛生士による健康状態、育児、食育などの相談・指導などを実施した。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

安心して子育てできるまちづくりをめざす。

②事業を実施する必要性

妊婦の健康づくりを推進し、乳幼児から正しい生活習慣を身につけ、保護者が安心して子育てが出来るよう支援が必要であるため。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	9,998	10,378	10,796	6,183	6,456	6,456	6,456
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	1,841	1,635	1,662	1,524	1,782	1,782	1,782
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	145	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	9,998	10,233	10,796	6,183	6,456	6,456
職員等の従事人員	人/年	—	—	3.51	3.51			
人件費	千円	—	—	19,124	21,479			
事業費総額	千円	—	—	28,258	26,139			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

乳幼児健康診査	6,096,414円(報償費、賃金、消耗品、役務費)
母親教室	87,000円(報償費)

5. 事業結果の概要

乳幼児健康診査
 乳児前期健診 乳児後期健診一園部会場毎月、美山会場隔月)
 1歳8ヵ月児健診、2歳5ヵ月児相談(園部会場毎月、美山会場1回/3M)
 3歳5ヵ月児健診(園部会場のみ)
 全ての受診率95%以上
 母親教室一年4回実施参加者52名

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活動結果等
(1) 母親教室		
妊婦の健康管理の充実を図り、地域での交流を深め子育てにしやすい環境づくりを整える 妊娠中の栄養 マタニティヨガ 参加者交流	4回/年	母親教室参加者一延べ52人
(2) 乳幼児健診		
南丹市の子供のすこやかな成長のため、健康診査等を実施し、乳幼児の健康の保持増進を図る。①身体、運動機能、視聴覚等の疾患や障害、精神発達障害等の早期発見、指導、進行の防止②生活習慣の自立への助言③う歯の予防・早期治療の勧奨④「食育」のための栄養指導⑤育児不安への対応⑥虐待の予防・早期発見、早期対応 乳児前期健診、乳児後期健診、1歳8ヵ月児健診、3歳児健診、2歳児相談の実施	○乳児前期健診、乳児後期健診、1歳8ヵ月児健診、2歳児相談 園部会場、美山会場 3歳5ヵ月児健診（園部会場）	受診率一各健診95～99% 乳児前期一218人 乳児後期一193人 1.8歳児一239人 2歳児一209人 3歳児一242名
(3) 妊産婦訪問・新生児～乳児訪問		
妊産婦訪問一妊婦に対し不安の解消、健康保持増進のため保健指導を行う 乳幼児訪問一児が健やかに成長できる環境整備を行う 新生児～乳児のいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行なうとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつける。	妊婦訪問一希望者に実施、乳児訪問一4ヵ月までに全数訪問目標、幼児訪問一希望者に実施	妊婦訪問数一10件 新生児・乳児訪問数一278件 幼児訪問数一205件

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

乳幼児健康診査については、平成20年度から園部と美山の2箇所を集約して実施するようになったが、いずれの健診も95%以上の参加率でほとんど漏れなく受診されている。また、会場を集約したことでスタッフの確保がしやすくなり、また、内容の充実を図ることができるようになったこと、対象者の月齢幅が狭まることから評価がしやすく、問題を早期に発見できるようになった。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
広域な市内のサービス低下を招かないよう、又内容の充実をはかることを担当者と協議した。
- ②当該事業のアピール事項
安心して子育てできる支援を個別又は集団でそれぞれの状況に応じた支援を展開した。又、健診未受診者には再度受診勧奨や専門職による訪問等を行い、南丹市の母子全員に何らかの接点をもてるようにしている。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
母親教室の参加者増をはかる。乳幼児健診の時間内終了にむけて時間配分等の検討を行う。